

近隣住民各位

参考

国立大学法人東京学芸大学

## 本学バス通りヒマラヤスギ並木の伐採について

日頃より本学附属大泉小学校・国際中等教育学校の学校運営等に関しましてご理解・ご協力感謝申し上げます。本学大泉団地西バス通りに面するヒマラヤスギ並木は長年住民の皆様にも慕われ続けている樹木と存じ上げておりますが、このたび本学は同樹木の伐採を以下の理由から行うこととなりましたのでお知らせいたします。

ヒマラヤスギは根系分布が浅いという樹種特性があり、原産地よりも温暖な日本で肥大成長したものである。近年台風・ゲリラ豪雨等の自然災害時に倒木・太枝折れの被害が多く発生しております。

本学では対象樹木（11 本）の安全確保については、樹木医の資格を有する有識者 2 名に分析を依頼し、意見を聴取したところ、①樹木診断により全ての弱点を発見することは困難。②ヒマラヤスギは根系分布が浅いという樹種特性があり、他樹種に比べ根返り倒木について一定のリスクを抱えている。③倒木リスクを「低減」する措置としては、剪定による風圧軽減や重心低下、支柱やケーブリングを設置し、定期的な調査・保全を実施すればある程度の安全性は確保可能である。との見解をいただきました。

樹木医による見解を踏まえ、剪定とケーブリングにて安全確保が実現可能か検討いたしました。

剪定についての検討ですが、当該ヒマラヤスギは平成 29 年以前に高さ及び枝張りを抑え、道路への落ち葉を減らすことを目的とした断幹を含む基本剪定を実施しており、さらに本年 8 月にも高さを抑え、倒木リスクを軽減させる剪定を台風対策のために実施しているため、度重なる頂部断幹による樹木へのダメージは避けられず、さらなる剪定を行うことで腐朽が進行する恐れがあると考えられます。また倒木を防ぐためのケーブリングは、グラウンド及び通学路の障害となり附属学校の教育活動に支障をきたすことその他、基礎工事過程で根や地上部を痛めることや、当該ヒマラヤスギは幹周・高さが肥大化しており、相当な重量が負担となりケーブリングで支えられない可能性も考えられます。

上記に加えて、本学他団地にあるヒマラヤスギが樹木診断で伐採判定ではなかったものの根返り等の倒木被害があったという事実についても考慮して検討を行いました。

以上の事柄を総合的に検討した結果、学内児童・生徒・教職員関係者並びに近隣住民の方々への安全を確実に確保するためには当該樹木について伐採をせざるを得ないとの結論に至りました。

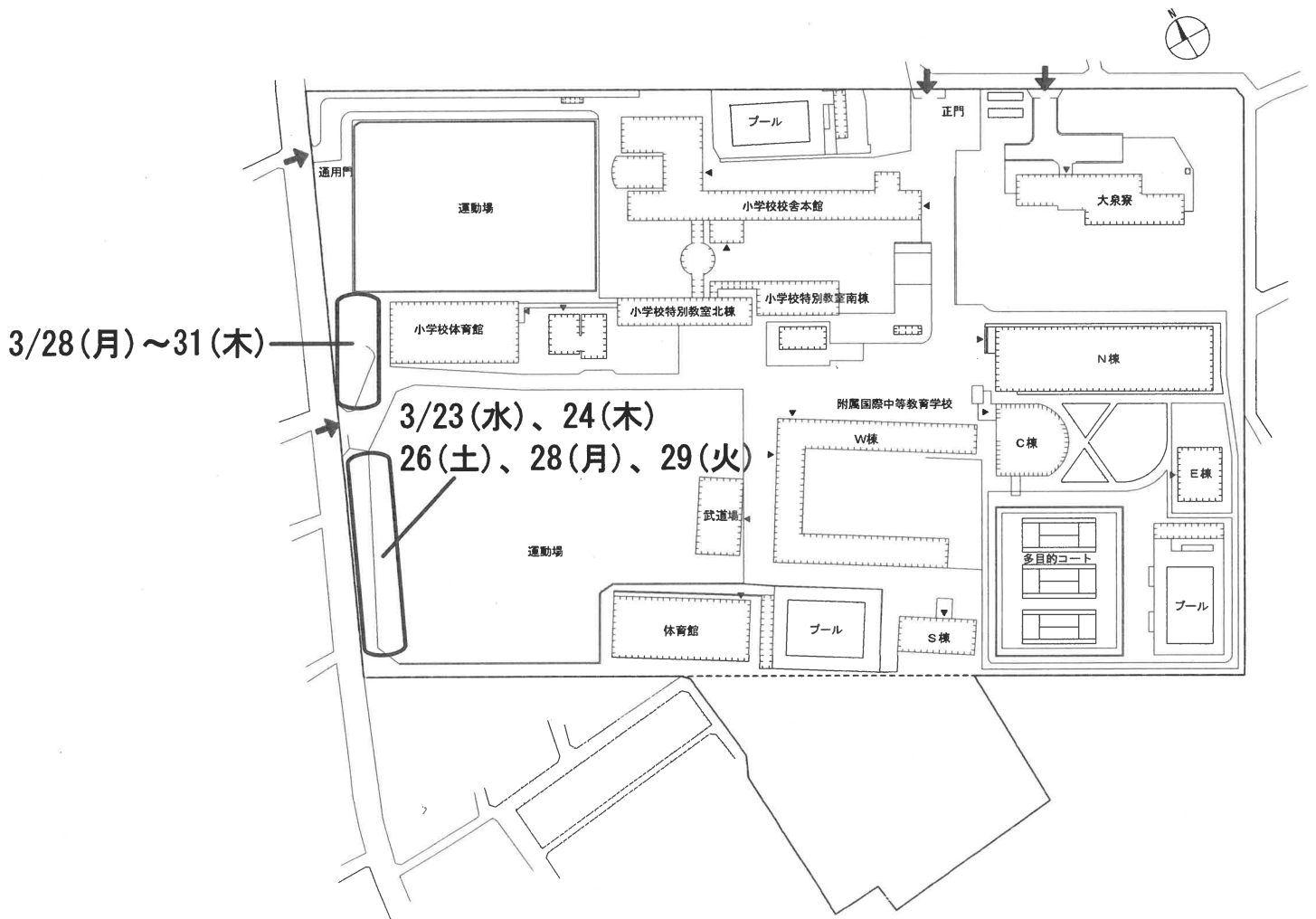
本学の管理責任において学内児童・生徒・教職員関係者並びに近隣住民の方々の安全の確保を考慮した対応であることから、ご理解の程よろしくお願いいたします。

伐採作業は令和 4 年 3 月 23 日～31 日に実施します。詳細な日程は裏面のとおりです。チェーンソーの騒音等でご迷惑おかけしますが、ご協力の程よろしくお願いいたします。

本件に関する問い合わせ先

国立大学法人 東京学芸大学財務・研究推進施設課

042-329-7157



凡例   : ヒマラヤスギ伐採作業位置

※日程は天候・進捗により変更になる場合があります。

※作業時間は8:30~17:30です。